

都道府県	鹿児島県
------	------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	鹿児島市立武中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	6	1	17	33
生徒数	168	173	205	4	550	

研究の概要

1. 研究主題

<p>ゆとりのある教育活動を展開するなかで基礎・基本の確実な定着を図り個性を生かす教育を充実する。</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生・英語 英語科の目標である実践的コミュニケーション能力の基礎を養うためには1年生からの継続した取り組みが必要であるため。 ・ 2年生・英語 生徒の理解の状況の差が出やすい学年であるため。 ・ 3年生・英語 生徒の理解の状況の差が出やすく、個に応じた指導が必要である学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 個を生かし確かな学力を身につけるための指導方法の工夫 -実践的コミュニケーション能力を養うための指導方法のあり方 - 研究の仮説 学習指導に過程において 1. 実践的コミュニケーション能力を養うための指導方法の工夫 2. 生徒一人一人の表現する能力を高めるための評価方法の工夫 3. 生徒一人一人に英語に対する意欲を持たせるような授業方法の工夫 を行えば、生徒の自ら学ぶ意欲や積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が培われその結果、実践的コミュニケーション能力が高まり、確かな学力を身につけることができる。</p>
--------	---

平成15年度	<p>研究の内容・方法</p> <p>1．実践的コミュニケーション能力を養うための指導方法の工夫</p> <p>(1)毎時間の授業方法の工夫</p> <p>ア 授業の導入時における場面設定を考慮した会話活動</p> <p>イ 毎時間の基礎・基本の定着</p> <p>ウ ワークシートの効果的な活用</p> <p>(2)チームティーチングの工夫</p> <p>ア JTEとALT</p> <p>イ JTE1 と JTE2</p> <p>2．生徒一人一人の表現する能力を養うための評価方法の工夫</p> <p>(1)自己評価カードの工夫</p> <p>(2)単元末テスト,定期テストの分析・活用</p> <p>(3)個人カルテの作成</p> <p>3．生徒一人一人に英語に対する意欲を持たせるような授業方法の工夫</p> <p>(1)習熟の程度に応じた指導</p> <p>ア 「power up」コース「step up」コースに分けたコース別学習（少人数指導）</p> <p>イ 選択英語における補充的、発展的な指導</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>個を生かし確かな学力を身につけるための指導方法の工夫。</p> <p>-実践的コミュニケーション能力を養うための指導方法のあり方 -</p> <p>研究の仮説</p> <p>学習指導過程において</p> <p>1．実践的コミュニケーション能力を養うための指導方法の工夫</p> <p>2．生徒一人一人の表現する能力を高めるための評価方法の工夫</p> <p>3．生徒一人一人に英語に対する意欲を持たせるような授業方法の工夫</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>1．実践的コミュニケーション能力を養うための指導方法の工夫</p> <p>(1)毎時間の授業方法の工夫</p> <p>ア 授業の導入時における場面設定を考慮した会話活動</p> <p>イ 毎時間の基礎・基本の定着</p> <p>ウ ワークシートの効果的な活用</p> <p>(2)チームティーチングの工夫</p> <p>ア JTE と ALT</p> <p>イ JTE1 と JTE2</p> <p>2．生徒一人一人の表現する能力を養うための評価方法の工夫</p> <p>(1)自己評価カードの工夫</p> <p>(2)単元末テスト,定期テストの分析・活用</p>
--------	---

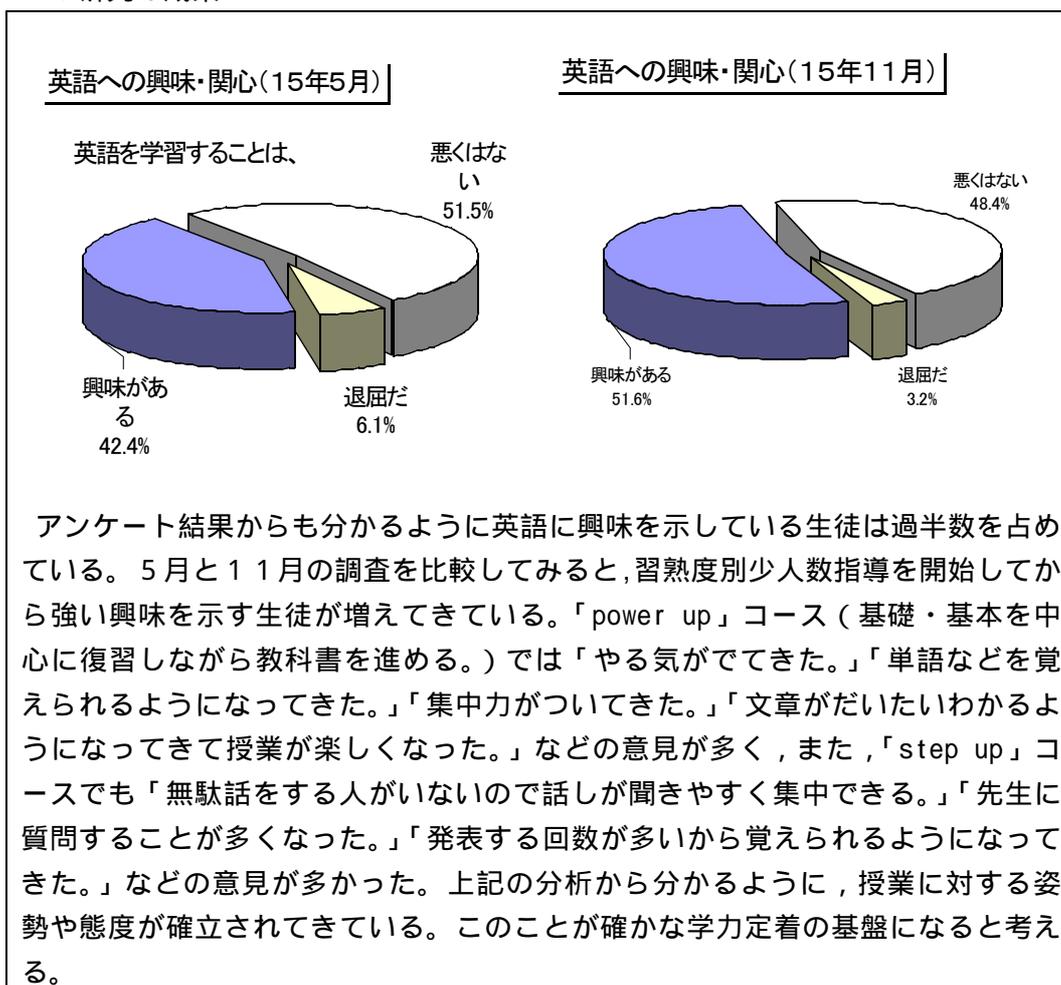
平成16年度	(3)個人カルテの作成
	3. 生徒一人一人に英語に対する意欲を持たせるような授業方法の工夫
	(1)習熟の程度に応じた指導
	ア 「power up」コース「step up」コースに分けたコース別学習（少人数指導）
	イ 選択英語における補充的、発展的な指導
	(2)「4領域」による弾力的なコース別学習の工夫
	4. 生徒の実態の分析と活用方法の工夫
	5. 総合的な学習の時間等との関連

(3) 研究推進体制

フロンティアティチャーを中心に英語科で年次ごとの目標に従い研究を行っている。また、研究の推進にあたっては校長、教頭に助言を受けている。平成16年度は、英語以外の教科（数学）でも研究を進める予定である。

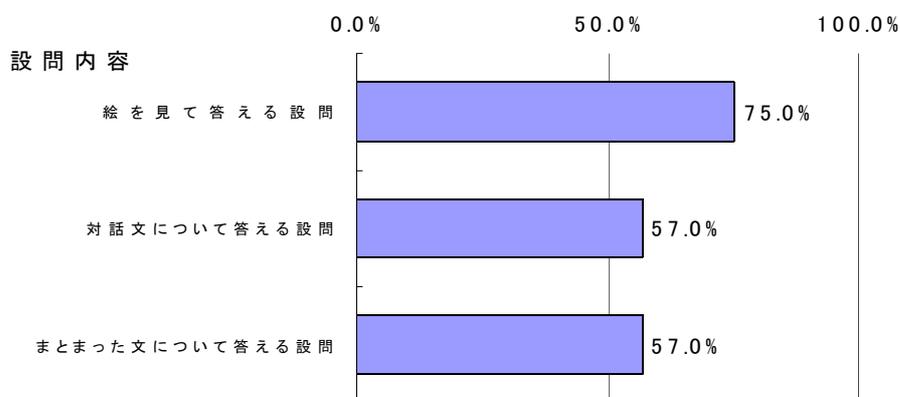
平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果



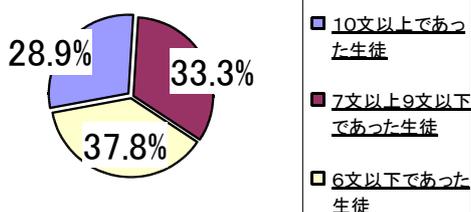
2. 今後の課題

リスニング問題正答率

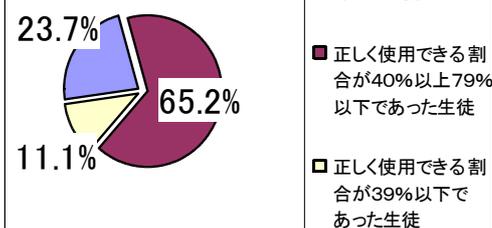


ライティング問題の分析

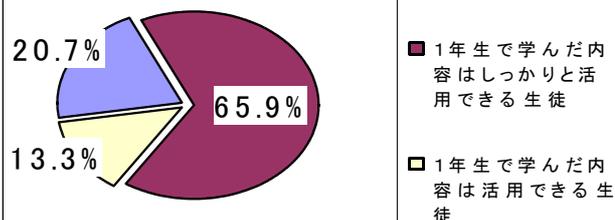
設問の条件を満たしている比率



文法・単語を正確に扱うことができる比率



学んだ内容を活用できる比率



(1)上記のようなテストを行った結果、「聞くこと」においては英問英答を苦手としている生徒が多く、また「書くこと」においては文を書こうとする意欲はあるのだが単語の正確性や学んだ内容を活用する力が足りない生徒が多いことが分かる。そこで基礎・基本の定着が実践的コミュニケーション能力を高める大きな役割を占めると考え、今後の課題として基礎・基本の定着の更なる研究が必要である。

- (2) 授業者二人の綿密なる打ち合わせが必要である。
- (3) 個々の生徒に応じた多様な課題設定が必要であり、教材の十分な研究が必要である。
- (4) 題材ごと、課の重点目標によるコースの編成の検討が必要である。
- (5) 指導に生きる評価の工夫改善が必要である。

学力把握のための学校としての取り組み

授業中に生徒一人一人の理解の能力や表現の能力を把握するための小テスト（語彙テスト、文法テスト、Reading テスト、Speaking テスト）を各課ごとに実施している。これらの調査を来年度はさらに発展的なものにし、またデータの蓄積を確実に行う。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・フロンティアティチャーとしての研究成果普及のための活動予定
 さまざまな研究会に参加し、そこで得た様々な指導方法や研究実践をまとめ学力向上委員会に報告する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。

- (新規校・継続校) 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- (学校規模) 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- (指導体制) 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- (研究教科) 国語 社会 数学 理科 外国語
 音楽 美術 保健体育 技術・家庭
 その他
- (指導方法の工夫改善に関わる加配の有無) 有 無